

# 町医者だより

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器内科

令和06年09月号

## CYP3A

CYP3Aはシップ3Aと読みます。シトクロムP450、ファミリー3、サブファミリーAのことで肝臓での薬剤代謝におけるメインプレイヤーです。CYPはCYP1A、CYP2C9、CYP2C19、CYP2D6、CYP2E1、CYP3A4の6種類があり総称でCYPs シップスとも言われています。

なかでも CYP3A4 は現在臨床で使用されている医薬品の 50 %以上の代謝に関与していると言われていて、薬物治療の最適化を考える上で最も重要な代謝酵素であることが知られています。

グレープフルーツジュースやグレープフルーツの果肉にはCYP3Aの働きを阻害する成分が含まれているため、薬の分解が遅くなり、そのため薬剤血中濃度が上昇し、予期せぬ副作用を起こすことがあります。また、この抑制効果は持続するため、服用の時間をずらすだけでは相互作用を回避できないともいわれています。このグレープジュースの話は、血圧の薬、カルシウム拮抗剤のアムロジピンベシル酸塩（アムロジミン、ノルバスク）、ニフェジピン（アダラート）、ベニジピン（コニール）でよく聞く話ですが、これらの薬もCYP3A代謝に依存するからで、CYP3Aが薬剤代謝のメインプレイヤーになっている薬剤が多いことから、定期的になんらかのお薬を飲まれている方は、グレープジュースを毎日のように飲むのは避けておいた方が無難です。

もっと深刻なのは、薬剤を複数飲んである時の相互作用です。

抗生剤のクラリスロマイシン（クラリス）、エリスロマイシン（エリスロシン）と抗真菌薬のイトラコナゾール（イトリゾール）とフルコナゾール（ジフルカン）そしてカルシウム拮抗剤で頻脈性不整脈や狭心症で使用するベラパミル（ワソラン）は強力なCYP3A阻害剤なため、服薬している薬（併用薬）の代謝を抑制するため、併用薬の血中濃度が上がってしまいます。そのため、これらの薬剤を使用しなくてはならない時には、例えばエドキサバン第Xa因子阻害薬に分類される経口抗凝固薬のエンドキサバン（リクシアナ）を投与する場合は出血の副作用を減らすためエンドキサバンを半量に減量する必要があります。

また、不眠症治療薬のオレキシシン受容体拮抗薬であるベルソラムやデエビゴについては、ベルソラムとは併用禁忌で使用できず、デエビゴは併用禁忌ではありませんが併用する時は半量投与する事になっています。これらの薬は有名ですが、3剤、4剤とCYP3A4代謝薬剤を飲む事で代謝が競合抑制されて思わぬ副作用出る可能性があります。飲む薬は少ない方がよさそうです。